

# 品種別工程別原価管理の仕組み構築を支援

株式会社soliton corporation (奈良県)

精度のよい製造原価の見える化に取り組み、現場の意識改革と利益率の安定化を同時に実現

## 1. 相談のきっかけ

アイライナーの穂先販売が大きく伸びる中、ものづくり面での課題が山積していた。特に、最新の精度良い製造原価が見えてないこと、独自に求めた原価も正しいかどうか判らない状況であった。

そこで、奈良県地域産業振興センターの当拠点で工程の見直しを行うことになった。

## 2. 課題整理・分析

穂先の研究開発から行い大手化粧品メーカーからの信頼も厚いが、熟練職人の経験によるものづくりで現場改革が進んでいなかった。そこで全品種、全工程別実績原価管理を行うことを目標として、まず本質課題を明確にすることにした。

- 工程別作業時間、標準出来高管理
- 人員管理
- 係やグループ別決算

## 3. 解決策の提案

- 現場課題を整理・共有した上で、費用/人員/時間/出来高の把握と試算時に適用させる適用基準レートの具体サンプルを提示
- 月次決算を充実化させるため、次月事前管理もできる新決算書の導入を提案
- 主テーマに対して工程別月次決算書活用と工程別原価管理の見える化指標管理サンプルの提示



## 4. 成果

- 生産工程を工程別グループに分けて直接費用・間接費用を集計し、各工程における個別原価の係数管理方法を構築した。

この結果

- ① 職人氣質の現場社員に、利益に対する意識を醸成させることができた  
・これまで見えていなかった歩留りがチェックできるようになったため、製造工程の無駄や、製品の品質に着目し、ロスを減らす事への強い意識が生まれた。
- ② 生産工程の無駄を、数値を用いて確認できるようになり、定性的な指導ではなく、定量的に現場指導をする事が可能になった
- ③ 必要な利益を確保した上で月ごとの生産計画を組めるようになり、売上に対する利益率を一定に維持することが可能になった
- ④ 顧客との有利な契約形態(年間包括契約・現金取引)が増え、資金繰りが大きく改善され、機械化などの投資が容易に計画できる体質へと変わった。

